

地域に開かれた医療機関へ

伊豆の今

住民向けサロンや外来注力

昨年9月改称 南熱海病院

熱海市下多賀の南熱海病院は昨年9月、「社会福祉法人愛誠会南あたま第一病院」から「社会福祉法人愛誠会南熱海病院」へ名称を改め、地域に開かれた医療機関として新たな歩みを進めている。長期入院が必要な患者を対象とした療養型病院として運営をしているが、地域との接点を広げようと、住民向けの取り組みや外来診療、在宅医療にも力を注ぎ始めている。職員は「地域の皆さんに愛され、信頼される地元の病院でありたい」と口をそろえる。岡村律子病院長や中原秀人医師らに、現在の取り組みや今後の展望を聞いた。

岡村病院長によると、同病院は急な病気やけがで短期間の入院治療が必要な一般病床を長い間休床していることから、地域住民と触れ合う機会が限られていた。こうした背景を踏まえ、改めて病院を知ってもらおうと、今年5月に住民向け「健康相談サロン」を始めた。

サロンはこれまでに3回開催。病院紹介、市消防職員を招いた熱中症対策、リハビリ職員による運動指導など、毎回違うテーマを設定している。参加者アンケートをもとに増えている。

さらに、病院内の雰囲気や設備を伝えるため、ホームページも刷新した。院内の様子や職員の働く姿を掲載した他、最新の情報発信を随時行っている。

同病院には、療養型病

在宅への取り組みも開始



南熱海病院の岡村病院長(左から3人目)、中原医師(同2人目)ら職員ら熱海市下多賀

院では珍しく人工透析設備が整う。外来通院が難しい高齢者でも入院しながら透析治療を続けられる点が特徴で、地域の受け皿としての役割を果たしている。

また5月に在宅医療に長年従事していた中原医師が着任したこと、在宅医療への取り組みを開始した。自宅療養を望む患者への往診やがんの

緩和ケアに力を入れる。中原医師は「通院が難しくなると、本人の望みとは違う形で最期を迎える場合もある。在宅医療があれば、その人らしい生活を守る選択肢を残すことにつながる」と語り、「在宅を含めた地域医療を整えていきたい」と意欲を示す。

同病院は6月に市医師会へ加入し、来年度から市の特定健診や各種検診、予防接種にも対応可能になる。地域医療への関わりは一段と広がりそう。

南熱海病院は、新たな地域医療の担い手として着実に歩みを進めている。(熱海新聞 佐々木琉成)

外来受付時間 月～金
曜日午前9時～11時半、
午後2時～午後4時半
休診 土・日曜、祝日
問い合わせ (電05
57(68)2218)